

平成24年度博物館施設評価集計シート

施設名 歴史と民俗の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

数値化共通項目(全館共通)

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	479	人	B	474人×101%	
				409	人		開館日数:310日 総観覧者数:126,886人	
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	146	人	C	145人×101%	
				115	人		開館日数:310日 総観覧者数:35,710人	
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	288	件	A	215件×134%	
				308	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	177,561	件	A	126,829件×140%	
				492,812	件		更新237回	
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	367	件	A	282件×130%	
				1041	件		掲載件数 259件	
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	16,273,000	円	C	当該年度予算計上額	
				10,879,999	円		観覧料収入4,760,450円+その他6,119,549円	

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

必須項目(全館共通)

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	12	件	A	別紙チェックリストによる	
				12	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				17	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				12	件			
9	施設の活用	施設の活用・活用	施設の活用・活用状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

館別独自項目

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠
				達成度			特記事項
1	魅力ある展示	特別展・企画展事業の実施	歴史・民俗・古美術をテーマとした全国レベルの特別展・企画展の実施状況	8	件	A	別紙チェックリストによる
				8	件		
2	中核的施設の役割	中核的施設としての活動	中核的施設としての活動状況	6	件	A	別紙チェックリストによる
				5	件		
3	多様な学習支援プログラムの提供	ゆめ・体験ひろばの運営	機能や特色を生かした体験プログラムの実施状況	8	件	A	別紙チェックリストによる
				8	件		
4	文化遺産の次世代継承	伝統文化の記録・公開・継承	記録・公開・継承事業の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる
				7	件		

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の年2回開催(1月2日～2月11日「埼玉の歴史街道Ⅰ『新篇武蔵風土記稿の世界』」) ・所蔵する3件の国宝(太刀・短刀・慈光寺経)の同時公開(9月20日～11月25日)及びその広報 ・学校へのアンケート調査実施による、博物館へのニーズの把握 ・学校向け利用案内の早期作成・配布
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに冬期の企画展を正月開館に合わせた時期から開催したことで、従来入館者が少なかった冬期の入館者が増加し、1月の入館者数は歴史と民俗の博物館となって以降、最多を記録した。 ・企画展「埼玉歴史街道Ⅰ『新篇武蔵風土記稿の世界』」での899点を筆頭に、特別展・企画展で1,286点の館有資料の公開を実施した。 ・所蔵する3件の国宝を初めて同時公開したこと、公開開始時期を調整して天皇・皇后両陛下の行幸啓に合わせたことにより、マスコミや一般の多くの人々の興味を喚起し、博物館・所蔵資料の認知の拡大や来館に繋がった。 ・学校へのアンケート調査実施により、学校との連携を進める上での課題を把握することができた。また、出前授業の試行、学校向け案内配布時期の見直しなど、一部ではあるが課題への対応に着手することもできた。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	36人 (23人)	総予算額 (人件費を除く)	100,845,000円	職員一人あたりの県民人口	19,5万人
収蔵資料総点数	121,712点	事業経費 (上記の内数)	70,635,000円	利用者一人あたりのコスト (平成23年度)	772円
平成23年度 収集資料点数	190点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	16,273,000円 (8,529,900円)	県民人口に対する利用者割合 (平成23年度)	1,85%

平成24年度4月1日現在の埼玉県推計人口は 7,204,353人である

平成24年度 博物館施設 総合評価

施設名 歴史と民俗の博物館

	A評価	B評価	C評価
数値化共通項目	3	1	2
必須項目	9	0	0
館別独自項目	4	0	0
総合評価	91%【52点÷(19項目×3点)×100】		

自己評価総括

評価	<p>一日あたりの平均入館者数及び一日あたりの平均観覧者数が目標を下回った。特に、下半期以降の利用者が伸び悩み、平均観覧者数は目標値の8割弱と低迷した。 レファレンス件数は目標を20件上回った。ホームページアクセス件数や情報発信数は目標を大きく上回る結果となった。 特別展・企画展については、収蔵する数多くの資料を公開することができた一方、入館者数は伸び悩んだ。</p>
課題	<p>入館者及び観覧者の増が課題である。21、22年度の工事休館の影響で離れてしまった学校団体の利用回復を行うと共に、特別展及び企画展を多くの方に楽しんでいただける内容とする工夫や、入館に結び付く効果的な広報を行う必要がある。</p>
対応の方向	<p>今年度実施した学校へのアンケートの集計・分析結果に基づき、学校のニーズに合った連携の仕方（出前授業など）を提案するとともに、それが児童・生徒や保護者の来館に繋がる方策を検討する。 特別展・企画展の魅力アップを図り、広範な層にアピールする内容とすると共に、新聞などのメディアに取りあげられる工夫を行い、その都度の企画に合致した効果的な広報を実施する。</p>

評価委員総括

評価
小委員
コメント

●まずまずの総合評価と評価される。しかし、常設展示の入館者数の低迷は館活動の基本を脅かすものとして真剣に対処する必要があるだろう。従来テーマ展、特集展示等の内容を精製吟味し、常設展との連動で展示に新視点と奥行きを与えて、観覧者の新たな興味を呼び起こす工夫を望みたい。

そのためには、学芸員の地域に密着した調査研究活動の成果が基盤となる。その面の充実をめざしてほしい。

●年間の入館者数がやや減少し、その結果として入館料収入も目標に届かなかった点はやや気になるものの、正月開館に合わせた冬期企画展開催の試みにより、従来入館者が少なかった冬期の入館者を増加させたことは評価できる。対外的に、ホームページのアクセス件数が飛躍的に増加した点や、年間レファレンス対応件数・対マスコミ情報発信件数も大きく伸びた点などから見て、地道な日常的学芸活動がしっかりと行われたことが窺える。

●冬期企画展の正月開館により、冬期入館者数が増加したことは評価したいが、24年度は特別展回数を増やしたにもかかわらず、入館者数が八割弱と低迷したことについて、改めて状況分析をおこない、課題に挙げられたように展示の内容、広報にいつそうの工夫を求めたい。

HPアクセス数の伸びに鑑み、学芸員の専門・研究の紹介など博物館の活動がより身近に感じられるような工夫や、常設展展示替情報、ツイッターの活用など、積極的な情報発信に期待したい。